

はちおうじこども食堂見本市 2023 報告

2023年4月1日(土)東京たま未来メッセに於いて「はちおうじこども食堂見本市 2023」を開催しました。

こども食堂と市民がふれあう場として3年前に開催した見本市、コロナ禍を経て、3年ぶり、リアルで開催し、一般参加者45名、出展19団体と、たくさんのご参加をいただき、賑やかなイベントとなりました。

コロナ禍の3年間、こども食堂は常に「今自分ができること」最善の方法を模索し、食料配布や食堂開催、その時々にあったやり方で活動を続けてきました。それは、こどもたちと、地域とつながり続けたいという想いに他なりません。「こども食堂を忘れてないでね、コロナ禍が収まったらいつでも戻ってきてね」というアピールでした。でも、全国的にもこども食堂が食料供給の場所、貧困対策の場所のようになってしまい、食堂に元々来ていなかった方たちが食料配布を利用し、こどもたち始め、食料配布の必要のない食堂参加者は離れていきました。それが3年続くと、状況は変わります。小学生が中学生、小さい子はもうこども食堂を忘れてしまったかもしれません。3年の間に距離ができてしまったように感じます。

市民の方と直接話す機会を設けることで、より身近にこども食堂やこどもたちをめぐる活動について、見て、聞いて、知っていただき、各団体と市民の距離を縮め、参加の機会を促す場となることを目的に開催しました。

第1部

①湯浅誠氏講演

認定NPO 法人全国こども食堂支援センターむすびえ 理事長
東京大学特任教授・社会活動家

「居場所」とは？

たくさんあるのが理想 ⇨ 自己肯定感が高まる ⇨ やる気、活気

居場所がない ⇨ 自己肯定感が下がる ⇨ 元気がなくなる、活気がなくなる

↓

1990年代、遊び場が激減、空き地がなくなった ⇨ 責任問題

↓

こどもの居場所作りが必要

じゃあ、作ろう！ ⇨ こども食堂、プレーパーク

たくさんあるのが理想 ⇨ 全ての小学校区に居場所の設置を目標にしている自治体
八王子市も全ての中学校区に設置を目標！？

どうあれば居場所になり得るのか？

場だけではダメ 居場所はその人が決める

居場所づくり = 誰かの居場所になったらいいなと思って作る場

- 普段でない力を出せる
- 人が見ててくれる ⇨ ガンバリ
- 関係を結ぶ
- 気にかけてくれる人がいる

関係性＝居場所

こども食堂 食べるだけじゃない場
困った子、課題は無い方が良い、
それが無くなっても居場所は必要
こどもの成長を見守る場

場づくり = この地域でどう暮らしたいか
次の世代につなげていきたい

※滋賀 きたいさんのエピソード

「これからもリエゾンを大切にしていきます」

大切にしたい場になった、縦にも繋いでいきたい、バトンを繋いでゆける存在になった



② エピソードタイム

コーディネーター 三島理恵さん

認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター

むすびえ 理事、広報・ファンドレイジング

統括責任者

- ・ほいっぷ食堂 坂本さん
- ・はちおうじ子ども食堂 山崎さん・手塚さん
- ・すまいるカフェ 石黒さん・三上さん
- ・なかの子ども食堂 佐藤さん・福與さん
- ・馬ノ丈の子供食堂 青木さん
- ・参加者の方 3名

から様々なエピソードをいただきました。

こどもの成長を感じたお話や、名前を憶えてもらって嬉しかったなど、長く関わっているからこそ生まれる関係性を語られた方が多く、継続の大切さを感じました。

新しく始められた方の想いも参加者の皆さんに共感され、これからの活動のヒントになったという方もいました。



第2部 見本市

参加団体

はちおうじ子ども食堂	虹色食堂	無料塾アハ
ほっこり食堂	馬ノ丈の子供食堂	ボランティアセンター
ほいっぷ食堂	おや！福幸の夢食堂	フードバンク TAMA
光明八木町食堂	やえなも子ども食堂	フードバンク八王子えがお
すまいるカフェ	なかの学舎子ども食堂	フードバンク八王子
石川子ども食堂	ふくさく子ども食堂	
dattochi みんなの食堂	まほうのほうき	

14 のこども食堂、1つの無料塾、3つのフードバンクと「はちおうじミライ応援団」事務局のボランティアセンター、19 団体が参加し、PR だけでなく、バザーなどの物販も行いながら、参加者の方に積極的に呼びかけ、話をされていました。

ブースだけに留まらず、会場内あちこちに会話の輪ができ、参加者×出展者、出展者同士など、様々な交流が生まれていました。



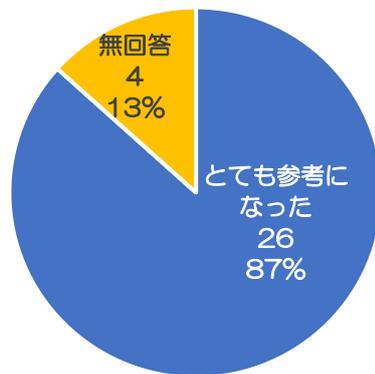
アンケート結果

参加者 45 名 アンケート回答者 30 名

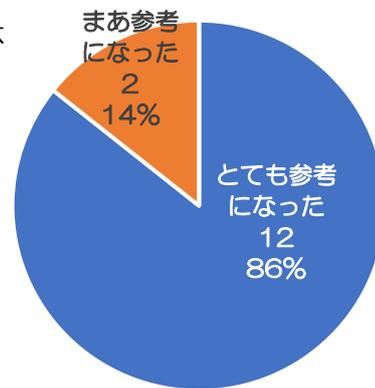
出展団体 19 団体 アンケート回答 14 団体

①湯浅誠氏の講演はいかがでしたか？

参加者



出展団体

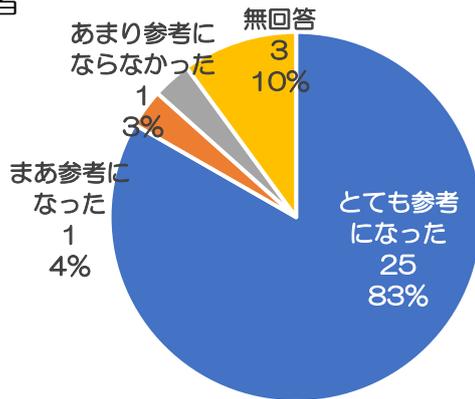


- 誰かの居場所をつくる＝自分の居場所だと気づきました。そこに意味が見えたことで、この先を考えていくきっかけにしたいと思います。
- 「見てもらえる関係性」という言葉がとても印象に残っています。
- 自身の役に立つお話を聞かせていただきました。自分達がやりたいと思うことのスタートラインに立てるキッカケになればと思います。ありがとうございました。
- 居場所を作ればどうにかなるかな？と単純に考えていたけれど、改めて色々考えさせられた講演でした。
- 「こども食堂のような場所は最終的に無い方が良いのではないか」と思っていたのですが、考えが変わりました。「居場所づくりは賭け」ということばも心に残ります。
- 住民自治、地域を住民の手でより良くするという思いに感動しました！
- まだ活動歴が短いですが、それでも迷いながらのこともあり、灯台となるようなお話をしてくださって、大変に心強かったです。
- 居場所を作るのはとても大切で、こどもの居場所となるこども食堂の活動を大切にしたいと思いました。

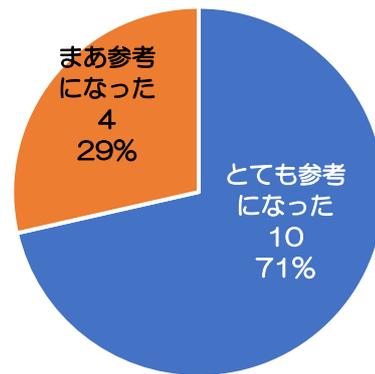


②エピソードタイムはいかがでしたか？

参加者



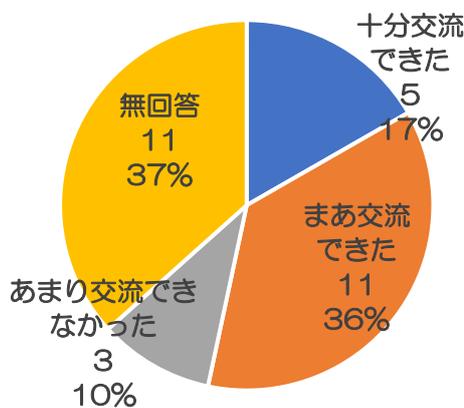
出展団体



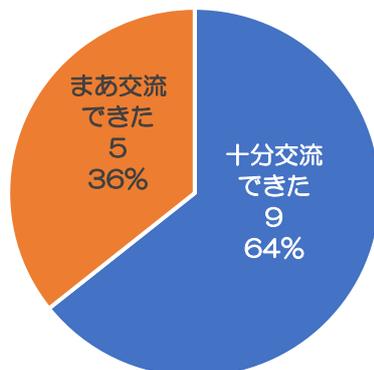
- 日々の皆様のご助力がお聞きでき、お腹を満たす事の大切さ、支える方々の力強さを感じました。
- 実際にやっている人の話を聞いて良かったです。こども食堂が近くにないため、報道以外で知る方法がなかったので、具体的な話を聞いて良かったです。
- 運営している方が楽しそうだった。人と関わって得られる喜びがこういう所にもあるのだと思います。
- それぞれの団体のお話を聞いて参考になることやカタチにしていくためのヒントがありました。また各団体のお話を聞ける機会があれば良いと思います。
- 皆さんの始める機会はそれぞれありましたが、居場所が提供できた喜びを皆さんお持ちだったので素敵だと思いました。
- 居酒屋さんで…とか色々な形があると知り目からウロコでした。おもしろいです。

③「こども食堂見本市」では参加者と交流できましたか？

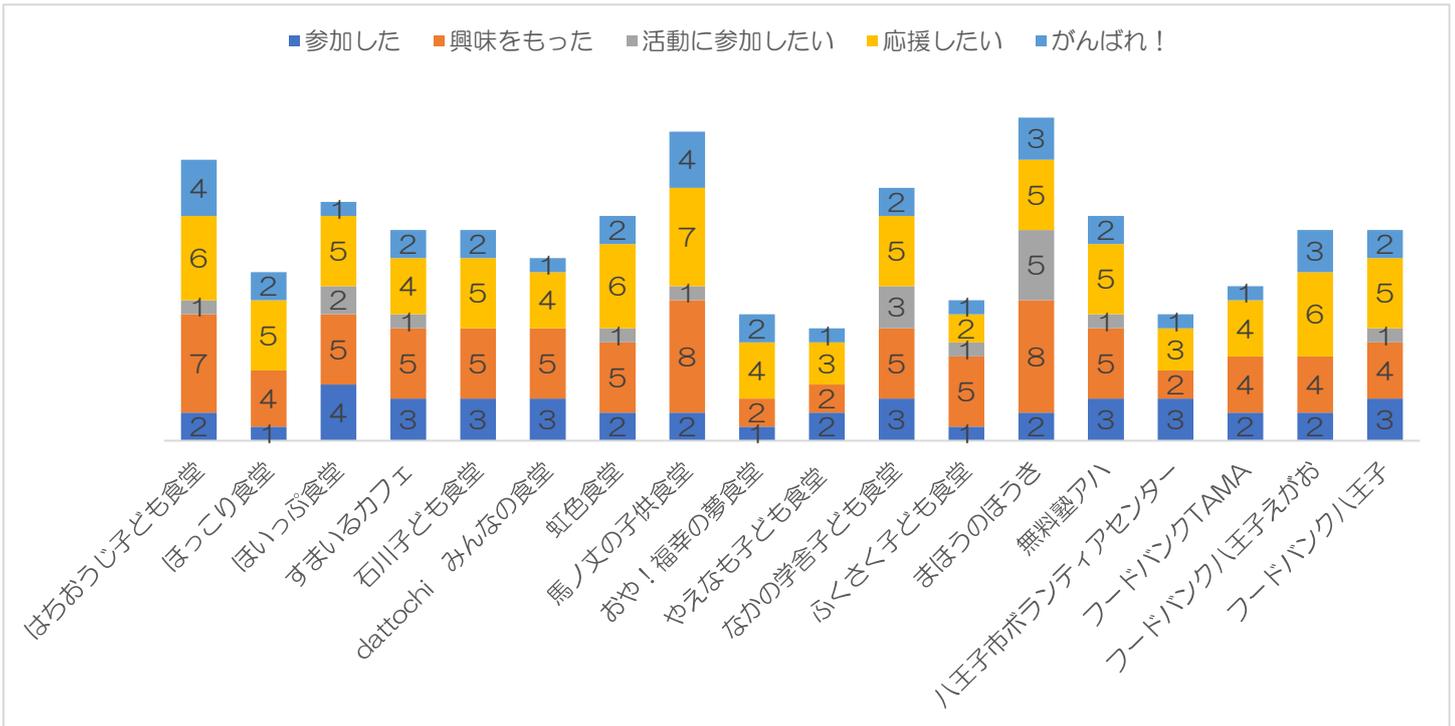
参加者



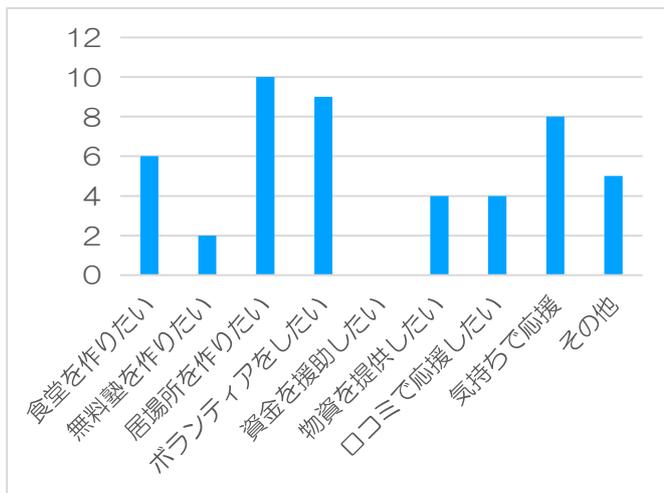
出展団体



④どの団体のブースに参加されましたか？また活動に興味を持っていただけましたか？（複数回答）



⑤今後、あなたがしたいと思う関わり方について教えてください。（複数回答）



⑥参加者の感想

- 資金の調達方法はどうか聞いてみたいです。
- 今の仕事を退職してからのこととして考えています。具体的な作り方なども知りたいです。
- 食堂やパントリーの形ではないのですが、働くママさんの居場所があれば良いなあと何となく考えています。
- シングルマザー向けシェアハウス
- コミュニティスペースでみんながしたいことをできる場所を作りたい。その1部門として子ども食堂の活動をしたい。自分は障害者の地域生活を支える介助者として活動しているため、拠点

は完全にアクセシブルなものにしたい。改修が必要な場合の費用の工面など、どのようなサポートを得られるのか知りたい。

- 高尾エリアで居場所作りの一貫としてこども食堂を行いたい。カフェ北野のように朝食を提供してみたいが、スタートとして実現可能なところから始めていけたらと思います。
- こども達の幸せを第一に考えた社会を目指しています。学校と地域が連携してこども食堂ができれば素敵だと思いました。大変勉強になりました。感謝！

⑥参加者の形態

年代は20代～60代以上まで幅広い年代が、バランスよく参加されていました。

女性の参加者が6割と若干多くいらっしゃいました。

市外からも2割の方が参加されていて、八王子のというより、こども食堂への関心の高まりを感じました。

⑦出展団体からの感想

- 近隣で理解を広げるために、湯浅さんのお話がとても参考になりました。地域の皆さんに「自分ごと」と思ってもらえると嬉しいです。また、先輩の食堂さんのお話も参考になりました！
- 日頃、お会いできないこども食堂さん、興味のある方、これから立ち上げる方などにお会いできてよかった。湯浅先生の話は今後の方向性を考えるのに、とても良かったです。
- ”何を大切にこれをやるのか”という一番大切な部分を改めて考えさせていただくとても貴重な機会でした。ありがとうございます。
- 居場所づくりはとても大切なことだと思います。八王子は広いので、歩いて行けるところに必要ですね。
- 準備の大変な企画かと思いますが、開催して下さってありがとうございました！
- 団体の交流という目的でも、こういったイベントは大切ですね。ありがとうございました。
- 大勢の参加者で、とても活気がありよ会（イベント）だと思いました。
- なかなかこういった機会がなかったので、参加できて良かったです。ありがとうございました。
- 私たちはフードバンクなので、同じ利用者さんと長くかかわることが難しく、支援が終わった方が気がなることが多々あります。こども食堂さんの活動がうらやましくも思います。

総括

3年ぶりの開催、コロナの一応の収束、それでもリアル開催に参加してくれる人がいるのか！？悩みながらの開催でした。結果、会場の定員ギリギリまでの参加を得、アンケートからも関心の高さが伺え、何らかの活動を始めたいと書かれた方も多くいらっしゃいました。参加団体からも様々な交流ができ、参加して良かった、また開催してほしいとの声がたくさんありましたので、結果、今回のリアルで開催した効果があったと感じます。

一応のコロナ禍の収束とは言っても食を囲む場なので、相変わらず食堂開催に気は抜けませんし、まだ食堂を再開していないところも多くあります。再開してもコロナ禍前のように、だれでもが自由に参加でき、皆でテーブルを囲み、大きな口で、食べ、おしゃべりし、笑い合う場にはまだまだ時間がかかるかもしれません。でも「私たちはいつでもここにいるよ、ここで待ってるよ」と活動を続けてまいります。だれかの「居場所」になるように。

今回の子ども食堂見本市にご協力くださいました皆さま

- 助成金、講演でご協力いただきました
認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ様
- 後援、広報にご協力くださいました
八王子市様 八王子市子どものしあわせ課様
- 後援、広報、団体への呼びかけにご協力くださいました
八王子市社会福祉協議会様
はちおうじミライ応援団事務局様
- チラシの配布にご協力くださった
各所管の皆さま
- 会場を貸してくださいました
東京たま未来メッセ様
- 取材をしてくださって、様々な形で取り上げてくださった
八王子経済新聞様
号外 NET はちおうじ様
八王子ジャーニー様
- SNS で発信をするといいいね！ やりツイートで拡散に協力してくださったとても多くの皆さま
- 参加してくださった多くの市民の皆さま
- 出展し、会場を盛り上げてくださった 子ども食堂、無料塾、フードバンク団体の皆さま
- 様々な形でご協力くださった はちおうじミライ応援団参加団体の皆さま

多くの方々のおかげで見本市が開催できました。
ここから参加者の皆さま、参加団体にもコロナ禍後の活動のヒントが得られ、新たなアクションに繋がることを期待し、サポートをさせていただきたいと思います。
みなさまのご協力に心から感謝申し上げます。

2023 年 4 月

一般社団法人フードバンク八王子

はちおうじ
こども食堂
見本市
2023

八王子のこども食堂の「今」を
見てみよう、聞いてみよう！

参加費 500円
定額 50名

4月1日(土) 13:30-16:00
会場:東京たま未来メッセ

会場:東京たま未来メッセ
〒186-8501 東京都八王子区北山1-1-1

プログラム

13:15 受付開始

13:30 湯淺誠氏 講演
「つながり続けるこども食堂」
こども食堂はコロナ禍の中でも増え続け、金額で2倍以上の増加を
しました。コロナ禍の3年間でこども食堂は「こどもたちと、地域
と繋がっている」という認知が広がりつつあります。その背景にはど
こから来ているのか、そしてコロナ禍以降のこども食堂の現状と
課題、様々な課題からの解決策についてご紹介します。

14:30 エピソードタイム コーディネーター 三倉理恵さん
こども食堂を始めるエピソードやこども食堂、ボランティアの選び方、
こども食堂の運営をご紹介します。

15:00 こども食堂見本市
はちおうじミライ応援団は協賛する団体がそれぞれブースを設け、
活動内容、バナーなど、参加者や子どもに直接交流できるコーナーです。

16:00

お申込みはこちら ▶ <https://on.ltw/7DC2QuJ>

フードバンク八王子 www.foodbank8tokyo.org
TEL 042-649-1769
info@foodbank8.tokyo

主催 一般社団法人フードバンク八王子
協賛 東京都八王子市社会福祉協議会、八王子市、はちおうじミライ応援団、東京たま未来メッセ、NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ

協賛 東京都八王子市社会福祉協議会、八王子市、はちおうじミライ応援団、東京たま未来メッセ、NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ